

モデル事業名	協働のまちづくりモデル事業
活動団体名	三芳町協働のまちづくりネットワーク
ホームページ	http://www.town.saitama-miyoshi.lg.jp/town/chosa/kyoudou_machidukuri.html
所属/ 担当者名	事務スタッフ 寺尾雅治
連絡先	(窓口) 三芳町総合政策室 049-258-0019 (421) seisaku@town.saitama-miyoshi.lg.jp
活動地域	埼玉県・入間郡・三芳町 (全域)

● 活動地域の概要

1 位置図



2 地域の特徴

元禄時代の三富新田開発の面影を残す首都近郊の緑豊かな近世開拓の里。駅に隣接し人口の半数以上が集中する東部地域（藤久保）では区画整理による都市基盤整備が進む一方、西部地域（上富）は三富開拓の名残をとどめる農村地帯が広がり、また、南東部地域には工業地帯が形成されるなど、多彩な地域資源を有する町。合併に関する住民投票を受けて、町は自立の道を選択し、住民と行政の協働によるまちづくりがスタートした。

3 人口と世帯等 (H21.11 末現在)

- (1) 人口：38,168人 (2) 世帯：15,176世帯
- (3) 年齢構成：年少人口14.5% 生産人口64.9% 高齢人口20.6%
- (4) 地区別人口割合：(上富地区) 9.4%、(北永井地区) 18.1%、(藤久保地区) 55.4%
(竹間沢地区) 11.4%、(みよし台地区) 5.6%

4 公共交通の状況

鉄道駅なし（東武東上線「鶴瀬駅」「みずほ台駅」に隣接）
民間路線バス（一部町補助）、関越自動車道三芳スマート IC（普通車まで、新潟方面との出入りのみ）

5 産業別就業人口の状況 (H17.10.1)

第1次産業 4.3% 第2次産業 29.3% 第3次産業 64.3%



三富開拓地割遺跡

● 活動地域の課題

町と協働で住民ワークショップを通して下記の地域課題を抽出している。

- 1) 健康福祉分野：(課題) 高齢化比率20%超で増加傾向。地区ごとに相互扶助による居場所が必要。
- 2) みどり環境分野：(課題) 開発や相続により年3～4ha 雑木林が減少。都市公園面積も1人当たり0.4㎡と少ない。
- 3) 都市安全分野：(課題) 治安の悪化、地域見守りの希薄化、歩道整備の遅れ、交通マナーの悪化。
- 4) 産業観光分野：(課題) ブランド力のある野菜がない。地産地消や遊休農地の活用が進まない。
- 5) 教育文化分野：(課題) 子どもの居場所が減少。家庭環境等で学習支援が必要な子が増加。
- 6) 協働全般：(課題) 協働のまちづくりの普及が不足し、協働メニューの公表と住民参加促進が必要。

● 活動の内容

・平成21年度

- 活動① ふれあいサロンの開設（高齢者の居場所づくり）
- 活動② 雑木林の整備管理活動と公園紹介リーフレットの作成
- 活動③ 安全・安心マップの作成と活用
- 活動④ みよしっ子野菜市の定期開催
- 活動⑤ 「こども学習広場」の活動支援（子どもの居場所づくり）
- 活動⑥ 協働のまちづくり公開学習会の開催

● 活動の成果

・平成21年度

- 活動① 藤久保地区の集会所にて「ふれあいサロン」を毎月第3土曜日に開催している。参加者同士のふれあいを第一に、ハーモニカ・手品・体操・健康講話などのゲストを招き話題づくりをしている。参加者の定着とロコミによる広がりが見えはじめている。
- 活動② みどりのボランティアを募集し、地権者の理解も得て、役場周辺の雑木林をモデル地区に整備作業を開始した。40～60人ほどの作業参加で防犯上も地球温暖化防止にも効果がある。また、町内の公園を調査して、住民の目で見えた魅力や特徴などを紹介する冊子の作成に取り組み、地域に公園への愛着や関心を引き起こす効果がある。
- 活動③ 5つの小学校区を踏査し、交通や防犯上の危険箇所を白図に落とす作業を行い、結果は学校関係者にも返して検証を行っている。現在、マップの完成に向け、デジタル化作業に取り組んでいる。
- 活動④ 町の顔づくりの一環として、三芳産の野菜をPRするため「みよしっ子野菜市」を毎月第4土曜日、公民館前の広場で開催している。農家への取材活動なども行うことで、農家と消費者の交流、地産地消に効果がある。
- 活動⑤ 日本語を母国語としない児童生徒など、学習環境に恵まれない子どもを対象にしたボランティア活動「こどもの学習広場」を側面支援し、ボランティア人材の確保や場所の確保、キャンプのサポートなどを実施した。人材が増え、学習環境が整うなどの効果があった。
- 活動⑥ 協働活動への住民参加層を広げるため「公開学習会」の企画に取り組んでいる。また、学習会を契機に活動情報をPRするため、まちづくりネットニュースを町内全戸に配布した。



雑木林整備作業風景



みよしっ子野菜市の様子

● 今後の課題及び展望

・課題

- 活動① ふれあいサロン活動の担い手の掘り起こしが難しい。
- 活動② 雑木林保全への関心は高いが、下草刈り等整備の必要性が理解されにくい。また若い人材が必要。公園リーフレットは、公共的な意味合いから町内全域の公園を扱う必要がある。
- 活動③ 安全安心マップは、地域の変化に伴って情報の最新化が必要である。
- 活動④ 野菜市の定期開催には更なる担い手の確保が必要である。
- 活動⑤ 実際の活動支援は、ヒト・モノ・カネの問題に直面し、解決が難しい。
- 活動⑥ 既存の各種住民活動（社会福祉協議会等のボランティア）との連携が難しい。

・展望

- 活動① ふれあいサロンを町全域に数カ所開設できるよう、現在の地区の担い手を育成し、民生委員や老人会等の協力も得ながら、要望のある他の地域でのサロン立ち上げに取り組みたい。
- 活動② 正式な地権者等との協定に向けた持続可能な雑木林整備と他地域への広がりからの必要性から、更なる人員確保が必要である。公園リーフレットは、地域の愛着が生まれるよう作成過程を大事にしたい。
- 活動③ 安全マップには夜間の情報を含めて定期的な踏査が必要であり、地域の声を反映させて活用を図りたい。
- 活動④ 野菜市の定期開催を軸としつつ、交流やブランド化に向けた様々な仕掛けづくりを行っていく。
- 活動⑤ 既存活動の支援を行いつつ、協働活動の核となるグループ直轄の居場所づくり事業の企画を検討する。
- 活動⑥ 他の公益活動とのネットワーク形成、地元の大学や企業との連携協力、寄付を含む財源の確保を検討する。